

福祉サービス第三者評価結果報告書

2008 年 3 月 17 日

東京都福祉サービス評価推進機構
財団法人 東京都高齢者研究・福祉振興財団理事長 殿

〒 193-0826
所在地 東京都八王子市元八王子町2-1934-5
もとやま社会福祉士事務所

評価機関名 特定非営利活動法人 子育て子育て宝仙ネット

認証評価機関番号 機構 02 - 013

電話番号 042-665-7857
代表者氏名 本山 美八郎

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	本山 美八郎	福祉、経営	H0201064
	②	糸原 徳美	福祉	H0403097
	③	喜納 美代子	経営	H0601004
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	若葉台バオバブ保育園			
事業所連絡先	〒	206-0824		
	所在地	東京都稲城市若葉台4-17		
	TEL	042-331-6258		
事業所代表者氏名	和田 秀一			
契約日	2007 年 10 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2007 年 10 月 17 日			
利用者調査結果報告日	2007 年 11 月 17 日			
自己評価の調査票配付日	2007 年 10 月 9 日			
自己評価結果報告日	2007 年 11 月 17 日			
訪問調査日	2007 年 11 月 21 日			
評価合議日	2007 年 12 月 2 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	職員説明会は2回に分けて実施した。 また、利用者についても園での会合に合わせて実施した。 訪問調査は2日間にわたって実施した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2008 年 2 月 20 日

事業者代表者氏名 和田 秀一

印

調査対象	平成19年10月17日現在入園している子どもの保護者の全世帯を対象とした。兄弟姉妹のケースについては、一番年少の子どもの対象としてもらった。		
調査方法	事前に職員に説明し、評価用紙等一式を登降園の際保護者に手渡して依頼してもらった。保護者には記入後同封の返信用封筒を使って投函してもらい、郵送にて回収した。		
利用者総数(人)	100		
調査対象者数(人)	100		
有効回答数(人)	59		
利用者総数に対する回答者割合(%)	59.0		

利用者調査全体のコメント

本園に対する総合的な感想では、「大変満足」が54.2%、「満足」が35.6%、「どちらともいえない」が6.8%、「不満」が1.7%、「大変不満」がゼロ、「無回答」が1.7%であり、回答者の89.8%の方が満足しているとの結果となった。設問に対して「はい」との肯定の回答の比率の高かったのは、「食事は子どもの状況に配慮されているか」が100%、「身近な自然や社会と十分関わっているか」が98.3%、「家庭と保育所に信頼関係があるか」が94.9%等であった。逆に低かった項目は、「安全対策は十分か」が52.5%、「利用者の要望や不満にきちんと対応されているか」が66.1%、「要望や不満を事務所に言いやすいか」が69.5%などであった。

本園の基本方針として保護者とのコミュニケーションを大切に、保護者と共に子育てをすることが掲げられ、さらに実際にそれを実践する工夫(例えば親子が楽しむプレイデー)が行われている。そうした取組みの結果が「保護者の要望不満を言い易いか、適切に対応されているか」等の項目で(本園の中では相対的に低い)、他園一般と比較すると非常に高めであるところに見られる。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	59	0	0	0
本設問に対する肯定の回答率は100%であり、本園の食育に対する取組には保護者のすべてが万全の信頼をおいていることが伺われる。自由意見は14件あり、農産地との交流による有機食材の使用、定期的な試食会やレシピの提供、アレルギー児への対応、離乳食や一人ひとりの子どもの体調に応じた配慮などへの感謝の言葉がほとんどである。そのほかに、弁当の日が困る、果物をもう少し出して欲しいとの要望が各1件あった。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	58	1	0	0
本設問に対する肯定の回答率は98.3%であり、前問につづいて全体の中で2番目に高い回答率となっている。なお、本設問はアンケート用紙では「戸外遊びの機会は十分ですか」との表現になっている。自由意見は11件あり、8件は肯定の意見であちこちの公園や散歩によく行っている、毎日泥んこの洗濯物でたくさん遊んできたことが分かるなどの記述があった。そのほかに、園庭での遊びが多い、散歩に行く機会を増やして欲しい、天気の良い日も外遊びがあり心配などの意見があった。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	51	4	0	4
本設問に対する肯定の回答率は86.4%であり、本調査全体の中では中位に位置している。本設問もアンケート用紙では、「保護者の急な残業等であらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要があった場合、柔軟に対応してくれますか」となっている。自由意見は7件あり、4件は肯定の意見で、いつも感謝、嫌な顔をされるようなことは全くない、十分すぎるほど対応してくれる等感謝の言葉である。そのほか、そういう機会がない、熱のある子も預かることがあるが他の子への感染が心配、時間変更の連絡が届いていなかった等の記述が各1件あった。				

4. 子どもの体調変化への対応(処置・連絡)は、十分か	50	4	4	1
<p>本設問に対する肯定の回答率は84.7%であり、本調査全体の中では中位に位置している。自由意見は12件あり、7件は肯定の意見で、少し熱があっても連絡はするが様子を見てくれるなど適度な保護者への配慮もあり感謝、咳や鼻水、便の状態など連絡ノートにきちんと書かれているなどの記述であった。他に、体の傷について連絡がなかったとの複数の記述、通院や怪我の処置などについての要望が各1件あった。</p>				
5. 安全対策が十分取られていると思うか	31	17	7	4
<p>本設問に対する肯定の回答率は52.5%であり、本調査全体の中で最も低い数値である。「どちらともいえない」が28.8%、「いいえ」が11.9%あることが注目される。自由意見は16件あり、肯定の意見は4件で子どもの遊びやすさを考えつつ安全にも配慮している、今はとても良くなったなどの記述であった。他の11件は、玄関の状態、点呼はされているか、大人の目のとどかないところ、フェンスが低い、蚊取り線香でのやけど、蚊の対策、安全対策についての園側の説明不足などについての心配・要望であり、今後の検討が望まれる。</p>				
6. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	50	7	2	0
<p>本設問に対する肯定の回答率は84.2%であり、本調査全体の中では中位に位置している。自由意見は12件あり、半数は肯定の意見であるが、半数は平日だと困る、土日がいい、土日だと困るなど多様な意見で、保護者の就労条件が多様な中での調整の難しさが伺われる。本園においては、主な行事については、年度当初に保護者にお知らせし、できるだけ対応していただけるように配慮はされている。</p>				
7. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	56	2	1	0
<p>本設問に対する肯定の回答率は94.9%であり、全体の中では3番目に高い回答率となっている。なお、本設問はアンケート用紙では「お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて職員と話したり相談することができますか」との表現になっている。自由意見は8件あり、ほとんどが、よく話を聞いてもらっているとの記述であるが、幼児では連絡ノートがなく壁新聞だけでは我が子の様子が良くわからないとの意見が1件あった。幼児クラスでは、日中の活動について降園時まで簡単な壁新聞をつくり、園内二箇所に掲示している。</p>				
8. 保護者の考えを聞く姿勢があるか	53	4	0	2
<p>本設問に対する肯定の回答率は89.8%であり、本調査全体の中では中位に位置している。本設問もアンケート用紙では「保護者が大切に考えていることについて、職員は話を利く姿勢がありますか」となっている。自由意見は5件あり、3件はよく聞いてもらっているとの肯定の意見で、他の2件は個人面談だけでは十分でない、安全対策では聞いてもらっていないとの記述であった。本園の基本方針には保護者とのコミュニケーションを大切にすることが掲げられており、今後さらに関係を深めるための努力が期待される。</p>				
9. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	43	11	1	4
<p>本設問に対する肯定の回答率は72.8%であり、本調査全体の中では低い方である。自由意見は5件あり、保護者からの連絡のファックス用紙の取扱に対する意見、職員の何気ない会話についての意見がそれぞれ複数あった。他に秘密がないのでなんとも言えないとの記述があった。専門職としての守秘義務はもちろんであるが、さらに個人情報保護法の趣旨を踏まえた取り組みも社会的に要請されているところであり、今後のさらなる取り組みが期待される。</p>				
10. 一人ひとりの子どもは大切にされていると思うか	55	2	0	2
<p>本設問に対する肯定の回答率は93.2%であり、本調査全体の中では高い方である。自由意見は7件あり、そう思うとの記述が多数であった。担任の先生が大好き、この地域に住む大事な子どもたちをみんなで育てるのだという雰囲気を感じる、何日か休んだ後職員の方が皆さん「○○ちゃん大丈夫?」と必ず声をかけてくれます、どの子に対してもその個性を見守ってくれています等の記述があった。その他、安全対策には疑問との記述も1件あった。</p>				

11. 職員の対応は丁寧か	51	3	4	1
<p>本設問に対する肯定の回答率は86.4%であり、本調査全体の中では中位である。本設問も実際のアンケート用紙では、「職員は礼儀正しく丁寧に対応していますか」との表現になっている。自由意見は8件あり、肯定の意見は2件で、他は友達感覚、言葉遣いや身だしなみに問題あり、敬語を使わない、挨拶をしない等、すべての職員ではないがとの前置きの後ではあるが、厳しい指摘の意見もあった。</p>				
12. 要望や不満を事業所に言いやすいか	41	13	3	2
<p>本設問に対する肯定の回答率は69.5%であり、本調査全体の中では3番目に低い回答率である。自由意見は8件あり、半数が肯定の意見で、他には不満がないのでとの意見が複数、園を信用していないみたいで言いづらい、市役所に言うなどの意見が各1件ずつあった。一般的に(多くの保育園で)この設問は低い傾向があり、本園においても他の設問との相対的な比較では低いが、7割台の肯定の回答を得ていることは驚きである</p>				
13. 利用者の要望や不満はきちんと対応されているか	39	11	4	5
<p>本設問に対する肯定の回答率は66.1%であり、本調査全体の中では4番目に低い回答率である。自由意見は、7件あり、5件は対応されているとの肯定の意見であり、安全対策は改善されていない、繰り返えられることがある等の記述があった。本設問についても前問同様一般的には低い傾向があり、本園においても相対的な比較では低いが、6割台の肯定の回答を得ていることは他園と比較すると高い数値である。</p>				
14. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	45	2	9	3
<p>本設問に対する肯定の回答率は76.3%であり、本調査全体の中では低い方である。「いいえ」との回答者が15.3%いることが注目される。自由意見は2件であり、知らなかった、委員を信用できるかわからないとの記述であった。本園では入園のしおりの最終ページに第三者委員について紹介している。本設問についても一般的には低い傾向があり、7割台の肯定の回答を得ていることは他園と比較するとかなり高い数値である。しかし、15%の回答者が知らなかったのであり、今後苦情処理システム全体についての理解を促進する取組が必要と思われる。</p>				
15. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	19	1	0	1
<p>本設問に対する肯定の回答率は90.5%であり、本調査全体の中では高い方である。自由意見は2件あり、あたたかい園だと感じた、途中入園なので詳しい説明はなかったとの記述であった。パンフレット「であいの広場 若葉台バオバブ保育園」、入園のしおり、園だより「であいの広場」、スイミー通信等の印刷媒体、ホームページと情報提供は積極的であるが、それらの情報がわかり易いかという観点からは今後のさらなる工夫検討が期待される。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点(A+)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <input type="radio"/>非該当
	【A+の取り組み】 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	
	法人と傘下の園が協力し作成された基本保育計画(職員のためのしおり)がある。本計画は改定第3版を重ねるもので、バオバブ保育園の職員が共有したい保育の知の集積であるとしている。最初に子どもたちのいのちを守り育むものとしての責任を自覚しようから始まる10項目の「バオバブ職員として心がけたいこと」職員の規範と「こんな保育を心がけます」と基本的保育理念と目標がまず示される。約180頁もの冊子で全職員に配られ(非常勤職員には貸し出し)子ども1人ひとりを大切にす保育の指針となっている。	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(A)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <input type="radio"/>非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当

【A+の取り組み】 ○あり ◎なし

カテゴリ1の講評

本園は近年急速なニュータウンの開発、大型マンションの建設が進行し、人口増、就学前児童増と保育所入所待機児の増加する都下の市部にある。市からの街づくり・ニュータウンの1画に保育所をとの要請に応え、平成11年に本園が建設された。園長初め8名の園建設担当職員が1年をかけ、検討を重ね完成した。防腐剤を注入しない無垢の木の建物・机椅子や築山にトンネルをつくった庭、小豆島から移植した大木に縄や木を組む大型遊具、土・水・虫・草・木等の自然を大切に幼児期に大切な身体・心の成長を育むための設備が整っている。

本園の園庭では、泥遊び・木々の間の隠家や基地づくり・一輪車を使っての工事の模倣等、自主的で活発な子供達の遊ぶ姿が見られる。利用者調査には保育者の子供を思う様子や子どもが楽しんでいる事に感謝の言葉が記されている反面、室内のざらつきが気になる・園庭遊びばかりと感じる等の思いも記述されている。園長は「遊びは子供の自我を育て・思いやりや協力を知る学びの場である事」を毎月園だよりに載せ、保護者に理解と協力を求めている。また、「子どもを守り、子供の成長を保障していく」という園の役割についても繰り返し話し合われている。

基本保育計画は園運営について、園長を最終的責任者としている。園長を含めた職員集団が運営主体で、職員会議は意思決定の場であるとされ、創設以来園運営の特色である。日常的な調整は園長、総務、ブロック・クラスリーダーで構成したリーダー会議(毎週開催)が行う。職員会議は運営と保育に分かれ、保育会議は非常勤職員も出席し、課題や情報を共有する。運営委員会は職員会議の議題等を事前に整理する役割を持つ。議論の繰返しが多いとの指摘があり会議の持ち方が検討課題とされている。今後十分な論議が期待される。

カテゴリ2	
2 経営における社会的責任	
サブカテゴリ1	
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる <input type="radio"/>非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし	
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している <input type="radio"/>非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし	
サブカテゴリ2	
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など) <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている <input type="radio"/>非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし	

評価項目2
ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している
評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3
地域の関係機関との連携を図っている
評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリ2の講評

基本保育計画(職員のためのしおり)には職員の守るべき規範が明記されている。子どもたちのいのちを守り育むものとしての責任を自覚しように始まる「バオバブ職員として心がけたいこと」10の規程が社会人、職業人としての自覚と責任を促す。子どもはどんなに小さくとも意思をもった人間として尊重するとも記されている。園長は年度初の職員会議で「心がけたいこと」を示し再認識を喚起している。利用者調査の自由記述欄には、地域に住む大切な子どもたちを皆で育て、大切に見守られているという感じについて数人の記載があった。

基本保育計画の「地域の子育て支援と社会貢献」では、保育園の機能や専門性をいかす取組み、地域活動と連携、ボランティア実習生受入れ等の考え方と対応を整理し規程している。本園は地域内に育児不安を抱え育児相談を必要とする家庭が増えていると捉えて、子育てひろば事業、一時保育を積極的に展開、保育所体験、子育て相談と講座、絵本おもちゃライブラリー等も企画・取組んでいる。週3日専任の保育士が担当し、専用の保育室は広くて大きな窓があり、ゆったりでき園庭にもすぐ出られる。子育て通信「スイミー」も発行されている。

本園は地域の子育て支援とそれに係る地域活動や他機関との連携も園の役割と捉え、今年度事業計画に載せている。地域教育懇談会は小中学校長、保育園幼稚園長、民生児童委員、地域の小中学生の行く生協店店長等の構成、主として青少年育成がテーマとなる。また保育と子育て支援について情報交換と連携ネットワークを作られている。これらの機関を通して小中学生の体験学習や先生の園見学の依頼がされる。園のバザールに近隣団地自治会や住民の方々の参加、共感も得られ理解も深められてきている。

カテゴリ3	
3 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
サブカテゴリ1	
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる <input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる <input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している <input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

カテゴリ3の講評

本園は苦情解決の仕組みをつくり、入園のしおり・園だより・ホームページで案内し第三者委員の氏名・連絡先も記している。このように種々の媒体で情報提供の努力がなされており、利用者調査でも制度を知っているとの答えが約75%あり、他の保育園と比較すると高い認知率となっている。しかし、知らないとの回答も約15%あり、今後、更に要望や苦情の言い易い関係創りに向けた取り組みを強化されることに期待が持たれる。玄関の事務室前には投函ボックスが置かれている。現在までに第三者委員を介した苦情申立てはない。

基本保育計画や入園のしおりには、保護者と保育者のコミュニケーションを大切にしていくとの方向性が示されている。利用者意向を把握するため行事ごとにアンケートを実施、その結果を園だより等で報告している。その他にも保護者懇談会や個人面談、グループ面談を実施、日常的には2歳児までは毎日の連絡ノートで、延長保育児や特別の連絡相談がある時は個別ノートや手紙で状況を伝えあう。今回初めての第三者評価で利用者の意見を受止め、園創設以来進めてきたバオバブの保育が、更に保護者と保育者が共有しあう保育となっていくことを期待したい。

市の地域教育懇談会は園が地域の情報を得る大切な機会であり、園も地域の社会資源として子どもの状況や課題の意見交換に取り組んでいる。子育てひろば事業を積極的に行うことで利用する母親たちから園利用者と違った地域の見方や情報を教えてもらえる場となっている。事業計画では今年度は地域の民生児童委員とのつながりを更に広げることも提起される。都や市等の主催する研修や連絡会では保育の全体状況に関する情報を把握すると共に、園の地域的役割を重視する保育行政の流れについても情報の収集に努めている。

カテゴリ4	
4	計画の策定と着実な実行
サブカテゴリ1	
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している 評点(B)	
評価	標準項目
○あり ●なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している
○非該当	
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している
○非該当	
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
○非該当	
【A+の取り組み】 ○あり ●なし	
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している 評点(A)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている
○非該当	
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている
○非該当	
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している
○非該当	
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している
○非該当	
【A+の取り組み】 ○あり ●なし	

評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点 (B)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にしているなどの取り組みを行っている	○非該当
○あり ◎なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当
◎あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
サブカテゴリ2		
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		評点 (A)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
カテゴリ4の講評		
<p>法人は傘下4保育園の連携、法人本部機能の見直しと整備が課題となる中、各園は保育の質の確保と向上を最大の課題としている。本園の19年度事業計画には、保育活動、一時保育・子育てひろば事業と園運営体制の見直し、事務の合理化が掲げられている。一方中・長期計画は策定されていないが、事業計画には単年度に実施するものと中・長期的な継続が望ましいものも見られる。今後、そうした課題の整理や法人の計画を加味した人材育成等について何時・どこまで等の指標を明示した中・長期計画の策定が望まれる。</p> <p>創設時より職員1人ひとりが主体となることを大事にしており、園の決定は職員会議が担う。事前と緊急には、園長と事務統括の総務、乳児・幼児ブロック、調理室、一時保育の各代表で構成する運営委員会が行われる。他に行事や研修、防災等21委員会に全職員が係分担し事業が進められる。会議を重視すると会議時間や回数が増え、職員の体調や経費の負担、迅速性の欠如等問題となる反面、合意による情報共有と協働意識は高い。今年度はこの運営体制が検討課題とされている。職員各々の意思と創意が発揮されるよう期待したい。</p> <p>利用者調査の利用者の安全の確保に関する設問では、玄関の施錠、園外周の柵(子どもも外部者も自由に出入りできるのではないか)等を心配する意見が比較的多く出ている。実際にやりとする場面もあったことで安全防災委員会を設置して園内外の危険箇所のチェック、改善をしている。また、事故報告書と事故には至らないインシデント報告書を整備し園全体で状況の共有化を図っている。子どもの体調や保護者の苦情等への確実迅速な対応を目指し昼の10分間ミーティングの実施など具体的な取り組みもなされている。</p>		

カテゴリ5

5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリ1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(B)

評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(B)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

サブカテゴリ2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(B)

評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

カテゴリ5の講評

園の求める職員像として、1人ひとりが運営の主体となる、自分の意見をはっきり表す、全体の立場に立って考えることを求めて、職員のためのしおりの「心がけたいこと」の最後にそれが明示されている。園長からクラス担当やリーダー、各委員会分担等の新年度組織原案の提案を受け、職員会議で調整がなされる。園長は年1回職員との個人面接を行い組織原案の作成に生かしている。法人は人事・給与体制の整備を年度計画としているが、人事考課を入れることには慎重で、園内でも検討を進めている。今後の検討を期待したい。

職員の育成では法人と傘下の4園が一体で取組んでいる。前年度事業報告では園内研修、園内交流研修、三園交流研修、外部研修に大別し、園内は乳児と幼児が夫々テーマを決め話合う、園内交流は保育士・栄養士が互いの職場に入る、あるいは乳児・幼児の各ブロックでの交換など、三園交流は法人内の他園での保育参観である。外部研修には22名が参加している。個人別研修計画はないが、研修委員会が計画し職員間での調整の上、報告を義務とし複数参加も受けられる。職員自身が日常と違う職場での研修を求める等自己啓発意欲が旺盛である。

職員の主体性、やる気向上では園長が職員を支援する思いが感じられる。園は職員間、職員と保護者のコミュニケーションや交流を重視し、職員も前向きである。職員会議への参加は職員の義務で、論議に熱が入り、逆に混沌として長時間、複数回になることもある。時間外の会議は運営経費の問題となり、職員の心身の健康にも影響する。現状は会議の負担感が職員の中にも出ており、各種会議の意義とあり方は園・法人共に早期の検討が望まれる。また、有給休暇の取得の保障は必要であり、毎月有給と生理休暇の取得を保障する等の努力が見られる。

カテゴリ7	
7	情報の保護・共有
サブカテゴリ1	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる 評点(A)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している <input type="radio"/>非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している 評点(B)	
評価	標準項目
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし	
カテゴリ7の講評	
<p>保育園は地域の子育て家庭全体に寄与する地域の社会資源とならなければならないとし、子育てひろば事業・一時保育に本園の積極的な取り組みがなされている。その上で実施された内容の記録や資料はファイリングされ事務室で管理され、必要に応じ職員は閲覧ができる。また、子育てや保育に関わる月刊誌や絵本などが事務室前や廊下の棚に置かれ、保護者への情報提供がなされている。</p> <p>法人は職員就業規則や個人情報保護の規程を作り、個人情報に対する守秘義務・情報提供に関する規程は整備されている。一方子どもや家庭から提供される個人情報の記載された様々な個人資料にはその利用目的や目的以外には使用しない等の文言が明示されていない。また、パソコン使用による記録の作成は職員個人にまかされている。個人情報の管理、アクセス権限の対応策、利用者に対する個人情報保護に係る園の対応を知らせる取組み、基本保育計画への明文化など情報管理に関する危機管理対応の強化が望まれる。</p> <p>本園では、実習生・ボランティア・小中高生の実習は、保育園という場を使った重要な社会貢献の機会であり、職員の学習の場でもあるとして熱心に対応されている。事前に受入れ担当職員を決め、園長がオリエンテーションを行い、重要事項で個人情報の説明をしている。今年度事業計画でも地域とのつながりが重視され、地域の様々な人々の参加も増える見込まれる。早期に保育基本計画に個人情報保護の主旨を盛り込むとともに、関係者への個人情報保護の誓約書の義務付け等具体策の検討を望みたい。</p>	

カテゴリ8	
8 カテゴリ1～7に関する活動成果	
サブカテゴリ1	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果	
<p>保育基本計画を活用しながら、「子のいのちを守り、成長発達を促す保育とは」とのテーマで園内研修を実施、安全確認と保護者対応の方法について具体的確認を行った。その後園内の安全管理に関するマニュアルの再検討へと進んでいる。</p> <p>又、上記検討の具体的な例として、毎日子どもの午睡時に10分間ミーティングを実施し、子どもの状況の把握と確認についての職員間の情報の共有の徹底を図っている。</p>	
サブカテゴリ2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果	
<p>職員研修会「何のために記録を書くか」を実施し、記述内容の充実に努めた。保育における記録の重要性、保育者がどう思い、どう理解したかの記述の持つ意味が再確認され、印象に残ったエピソードや振り返りの記述として日誌にも反映されてきている。</p>	
サブカテゴリ3	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果	
<p>延長保育(えくぼ)利用者の保護者が呼びかけられ、夕食を希望者に提供するという形で実施された。迎え時間の遅い親同士子どもとの時間の作り方、食事の支度の工夫など共通の悩みが出され情報交換された。この保護者の実施後は、登降園の時間帯にお互いに声を掛け合う姿も見かけられた。</p> <p>個人面談のやり方を保育状況などを伝える場となりがちな個人面接を見直し、グループ面談へと移行した。親同士の意見交換やよその家庭のやり方を知ることで、育児への不安が解消されるのではとの意図で実施したところ、保護者からも好評あった。</p>	

サブカテゴリ4

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

A+ A B C

改善の成果

財政的に余裕のある範囲で、非常勤職員の配置を厚くし、処遇の向上を優先させている。パートナー保育や第三者評価受審等補助金の増加に結びつく事業等にも取り組んでいる。

サブカテゴリ5

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している

・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

A+ A B C

改善の成果

第三者評価の受審を行うための準備、受審による気づきなどから新たな課題についての認識も深まった。本園独自の取組であるプレイデー(運動会)の昨年のアンケートに基づき、実施方法改善した。また本年のパオバザールの収益金の使途についても保護者のアンケートをとることとなった。保護者懇談会の持ち方などについてより保護者の役に立つような工夫(延長保育利用者の会、グループ面接等)が図られた。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
サブカテゴリ1の講評		
<p>本園では保育所に関する情報はホームページにて提供されている。その内容は、私たちの願い(保育目標)、私たちはこのような保育を心がけています、行事、クラス編成、園の概要、バオバブの食事はこんな事に気を配っていますなど、給食については離乳の考えなど詳しく記載されている。保育園パンフレットが作成され、家庭支援センター・保健センター・市役所に置かれていた。ホームページにアクセスできない保護者・ホームページの存在自体を知らない保護者への情報提供の手段としてパンフレットの内容見直しと配布先の検討がなされることが望まれる。</p> <p>本園の門の前にはガラス張りの掲示版が設置され絵本・おもちゃ貸し出し、育児相談、赤ちゃんの会、園庭で遊ぶ会などへお誘いのお知らせが掲示されている。本園で行われている一時保育は、らっこ組の名称で専用保育室を持ち正規の保育担当者を配置し毎月90～200名の利用があり地域に定着している事が伺える。アレルギーなど個別の対応は見学のときに説明され一時保育が決定すると個別の対応が決められる。保育園に通っていない家庭で育児をしている親にとって保育園を身近に感じてもらうため・育児不安解消に貢献する取り組みである。</p> <p>本園では、都の助成を受け子育て支援事業として、パートナー保育、親子ふれあい&子育て相談などを実施している。ひろばは“スイミー”という名の専用の部屋が設けられ親しまれている。その内容は、遊びの会・年齢別おしゃべりの会・子育て講座・絵本と遊具の貸し出し・電話子育て相談と多彩な企画となっている。スイミー通信が発行されている。昨年は、プレママの取り組みを始め経産婦からの話を聞く交流を企画し好評だった事が事業報告書に記載されている。育児講座年3回・秋刀魚の会など行事への呼び掛けに応え地域の参加者が年々増えている。</p>		
サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している			評点 (A)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている		○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし
サブカテゴリ2の講評			
<p>入園が決定した保護者には嘱託医により園の健康面での取り組みを説明し理解してもらう場を提供している。また、健康診断・個別面談を実施しアレルギーなど個別の状況を詳しく聞き取っている。個別面談は事前に「家庭状況書」を記入して頂き、それを参考にしながら、園長・総括・栄養士・看護師が面接を行う。入園予定の子どもについては一緒に連れてきてもらい、側にいる形で面接を受けてもらうことで、親子関係についても同時に把握される。すでに新担任は決定しているので、必要に応じて新担任との細部にわたる打ち合わせも行なわれる。</p> <p>慣れるための保育については入園前の個別面談で原則一週間程度を目安として行いたい旨が伝えられ、あらかじめ保護者の希望も聞きながら一週間程度で完了できるよう調整が行われる。子どもの状況に応じて、4～5歳児であれば2～3日くらい、転入園の場合は1日などとする。また子どもが安心するぬいぐるみやタオルなどもこの時期は持ってきてもらう。子どもと同時に保護者も不安を抱えていること等を考慮し、保護者と共に園での生活を経験してもらい、次第に安心できる場所という認識を持ってもらう仕組みを取り入れている。</p> <p>入園前の個別面談資料としての生活に関する状況を聞き取り・健康については、かかりつけの医院、ひきつけ・アレルギーの有無などを、排泄についてはオムツの有無・どのようなおむつかなど、食事については食事の仕方を中心に食事時間、食べ方など、家庭での様子を聞きとり不安の無いよう、子どもの呼び方など細かく聞き取り、それらを確認しながら保育園での生活リズムをつくっていく。聞き取った内容は記録され、入園後の保護者との協力の資料として活用される。</p>			
サブカテゴリ3			
3	個別状況に応じた計画策定・記録		
評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している			評点 (A)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		○非該当
【A+の取り組み】			○あり ●なし

評価項目2 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している			評点(B)
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している		<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目3 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点(A)
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点(A)
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している		<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			

サブカテゴリ3の講評

0歳・1歳～2歳児には、個別の指導計画案が策定され、月案、週案、保育日誌には、それぞれ個別の記載欄が設定され、一人ひとりに配慮した保育が実践されている。3歳からの幼児組についてはクラス内で個別の配慮について随時話し合いがもたれ、その内容は保育日誌に記載されている。今後こうして行われている幼児に対する個別の指導計画の見直しは、月案や年間指導計画案に反映されることが望まれる。個人別の配慮などは、運営会議・ブロック会議において報告されている。

児童票には、プロフィールとして本人の生年月日、家庭状況等が記載される欄があり、さらに、入園までの生活状況・乳児ではその時々の変化に応じて記入し、幼児では特に配慮が必要な場合は毎月、そうでない場合は年間3回に分けての経過記録が記載されている。健康記録(定期健康診断、歯科検診、身体測定)は、看護師の管理となっており、個人の記録として子供の育ちの経過が網羅された記録となるよう情報をとりまとめる事が必要と思われる、健康管理の部分と保育の経過記録との兼ね合いを保ちつつ検討されることが望まれる。

開園当初より個人の状況に配慮した保育をすすめようと個人面談を年1～2回実施してきた。しかし、2年前より保育状況などを伝える場と成りがちな個人面談を見直しグループ面談への移行を行っている。親同士の意見交換・よその家庭のやり方を知ることで、親同士が持つ育児への不安を解消するのに効果的と考えたからである。今後も、家庭状況に合わせ、保護者との連携のあり方や取り組みを柔軟に見直していく姿勢が継続されるよう期待される。

サブカテゴリ5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目1

子どものプライバシー保護を徹底している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ5の講評

今回の第三者評価の実施に伴う利用者調査で、「サービス提供に当たって、利用者のプライバシーは守られているか」との設問に対する肯定の回答は、回答者の73%であり、本園の調査結果全体からするとやや低めの回答であった。自由意見の中で、少数ではあるが「職員による」「少し聞いたりする」との記述もあり、今後プライバシー保護に関する園としての基本的な指針や規程を策定すると共に、全職員に対するプライバシー保護に関する認識の醸成に向けた取組みが期待される。

保護者との個人面談は年1～2回実施されている。必要に応じ個人での話し合いが行われ家庭状況や子どもの様子が話し合わせられ家庭と協力し保育が実施されている。その内容は、運営会議において報告され職員への周知がなされている。利用者調査の自由記述欄に「親の養育方針を理解しようとしている」「個性を見守ってくださる」など肯定的な意見が出される一方で、少数であるが「意見を出しにくい」との声もある。保護者の意向を汲み取る方法についての更なる創意工夫が期待される。

本園は、其々のクラスから直接トイレに入れるようになっており、便座のサイズも配慮されている。炊飯ジャーを活用したお尻拭き専用のウォーマーにはオムツが保温されトイレの前で汚物などが速やかに処理されている。現在3歳児トイレは扉が設置されていないが、その必要性と機能性を検討中である。周りからの視線に配慮することで子どもの安全面が損なわれないか等慎重で、他の決定事項に関しても職員会議において入念に検討が繰り返されている。また、幼児プールのシャワーについても外部からの視線を子どもの行動に配慮し、遮る方法を検討中である。

サブカテゴリ6

6 事業所業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取組みをしている

評点(B)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取組み】 あり なし

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取組みをしている

評点(B)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取組み】 あり なし

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ6の講評

本園では、0歳児・1～2歳児・幼児などをブロックという名称で括りそれらのブロックの職員で日々の保育の内容を検討する仕組みがある。ブロックで分けることで職員の活発な意見交換が出来るだけでなく子どもの様子の把握にも生かされている。保育の経験が豊富な職員が事情により退職した経緯もある中、職員の定着率は高く保育技術の向上には条件が揃っていると思われる。日常の中で子どもの行動に配慮し保育室での死角や園庭遊びの安全などの話し合いが積極的になされ現場での子どもとの関わり方がいっそう向上されることが期待される。

法人内共通の保育計画書が全職員に配布され、非常勤務職員には貸し出しをして内容が周知されている。職員は運営会議などに、計画書を携帯してその都度見直ししながら保育を実践できるよう活用されている。「職員同士の関係と、園運営」の章では、来訪者への対応・身だしなみ・健康管理など細かく記載され、社会人・就業人としての自覚と責任を持つことが謳われている。利用者調査の中で職員によって言葉遣い・連絡ノートの記事の仕方の差などを指摘する声もあり各クラス又はブロックごとの責任者を設け見直し・検討されることも視野に改善が望まれる。

1年を前期・後期に分けて各クラスの保育状況を職員全体で検討していく仕組みがあり、其々の期ごとに振り返った内容は「まとめ」として文章化されて全職員に配布されている。子どもの動きや言葉保育者とのエピソードが記入されるように指導されている。また、特別に配慮が必要な子どもに対しては個別に明記されており、職員全体でその事例を検討することが保育者集団の貴重な財産であるという位置づけとなっており、職員会議・職場研修会・研修分科会などの場を使って検討され子どもの様子に対応した保育を促している。

III サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点 (A+)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	◎あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	◎あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【A+の取り組み】		◎あり ○なし	
<p>1999年(平成11年)当該市の募集に応じて法人として本園が開設された。街全体が計画的に建設され丘全体が整備された。園庭整備・テラスのデッキづくり・タワー設置など開設以来継続して保護者と協働で行われ保護者と共に創り上げられてきた歴史がある。この活動は、園と保護者の子育てのパートナーとしての関係を作り出すだけで無く親同士の交流を作り出す大きな力となり子どもの生活に関心を持つきっかけとなる取り組みでもある。今後も、土曜・休日の協力を求める困難さを伴いながらも継続的に取り組まれることが期待される。</p>			
評価項目1の講評			
<p>乳児連絡ノートを使用し、家庭からの健康状態・機嫌・排便・睡眠・入浴・お迎え・食事・連絡事項など自由記述で連絡し園から個人別に様子を記入して相互に連絡を取っている。幼児クラスは、一日の様子を毎日ホールと玄関前にあるお知らせボードに壁新聞を貼ってお知らせしている。子どもの様子や連絡事項が記入され理解が図られている。保護者としては、今以上に自分の子どもがどのように過ごしたか知りたいとの意見もあるので壁新聞の書き方の工夫が検討されることが期待される。</p> <p>3年前に、2階0歳児テラスから直接園外に出られる橋が作られ歩行の未熟な時期の子どもが待つことなく戸外に出られるようになり個別な対応が実現した。1・2歳児混合クラスでは、子どもの様子に対応して少人数で行動できる仕組みが取り入れられている。1・2歳から成長に応じて手型押し・タンポ・絵筆を使ってなどの色遊び・わらべうた遊びが取り入れられ発表が行われることもある。親子で楽しめるブレイデー・保護者と協力して行うバオバザール・年長児お泊り会・お楽しみ会など本園独特の取り組みも多い。</p> <p>園庭は3～5歳と1・2歳、一時保育と分けられており、子どもの様子によって行き来できる仕組みとなっている。幼児の園庭は樹木で視界を遮り創造力を育む隠れる場を多くし、竹と縄で手作りされた運梯・タワーなど身体能力を引き出す配慮もなされ好奇心・チャレンジ精神・感動体験と大きな自信に繋がるものが隠されている遊び場である。街全体がコンクリートの多い中、自然と触れ合える園庭は、死角の多い危険な遊び場と捉えられることもあり親からの心配の声もある。園庭での過ごし方で、親の不安に応え、安全と保育理解への取り組みに期待したい。</p>			
2	評価項目2 栄養バランスを考えたうえで、おいしい食事を出している		評点 (A+)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	○非該当
	◎あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	○非該当
	◎あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	○非該当
	◎あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	○非該当
【A+の取り組み】		◎あり ○なし	
<p>0歳児クラスには、専用の調理場がありカウンターを通して子供の様子が一目でわかるような構造となっている。これらの対応の仕組みは法人全体職員の長年の経験から希望が出されたもので、モデルケースとなって法人全体の質の向上への取り組みへの足掛りとなっていることも注目される。一人ひとりの子供の状況に合わせその日の調理形態・分量が決められるだけでなく、体調によっては代替のメニューにするなど即日対応が出来る。一年を通じて専任の栄養士が担当する仕組みとなっており必要に応じて階下の栄養士との連絡も行う仕組みとなっている。</p>			

評価項目2の講評

回答者全員が「子供の状態に配慮された工夫がありますか」に「はい」と回答し、満足しているの回答が100%と評価され親子の食意識向上にも貢献している。自然農法の食材を吟味し安全で美味しい食事を提供したいとの考えが伝えられ、お米は地方産地の提携農家から届く。生産者と交流も深く、希望者は米収穫(援農)などに参加。子供が調理する事だけを食育とせず、収穫・季節感という観点からも捉え取り組んでいる。毎日見本ケースに昼食やおやつを展示、親子で献立を見ながら給食の話を交わす姿も見られ、月1度発行のレシピを持ち帰る姿もある。

本園は、茶碗は磁気製・汁椀は子どもが器を正しく持てる様底に窪みのある物を使用。配膳は保育室で行い、幼児クラスの子どもは当番で食事の盛り付け・配膳等の支度を手伝う。法人独自の食物アレルギーに関する確認事項用紙には緊急時の連絡先担当医師・除去内容などを記載し対応されている。給食室でアレルギー児の配膳を行い間違え無い様、子どもの氏名を記載したカードをプレートに添える。独自のアレルギー一覧表が作成されクラスでの確認に活用する。本園は、除去対応だけでなく次第に食材を食べられるような方向で進めている。

栄養士と保育士とが、園内研修として希望により栄養士は保育室に入り保育に従事することで保育士は給食に携わることで、互いの仕事への理解を深め・子どもの遊び・喫食状況の把握が可能となり保育現場と給食との密なる連携の為の貢献となっている。季節に応じた梅ジュース・味噌作り・秋刀魚の会・餅つきなどの場面ごと、日常保育の中にも給食職員が、各年齢ごとに一緒に食事を取り食事介助しながら喫食状況を把握し献立を企てている。本園での食育の取り組みは食材を買い物に行く・食材の絵を描くなどの多角的な保育活動が進められている。

評価項目3

子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	○ 非該当
◎あり ○なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をするしくみがある	○ 非該当
◎あり ○なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	○ 非該当
◎あり ○なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○ 非該当

【A+の取り組み】 ○あり ◎なし

評価項目3の講評

身体測定、歯科検診、0歳児は毎月内科健康診断が行われ、成長記録はB4サイズの個人記録表にまとめられ看護師によって管理されている。身体測定の結果は各クラスごとに知らされ保護者に伝えられる。看護師は、0歳児クラスに入ることが多く園全体の保育の様子など把握しにくいという事を受けて今年度より、インシデント報告を行う「10分会議」が実施されている。この会議は、即時に各組の子供の様子が全職員に伝わるという良い点が上げられ、今後はより保育に生かされる会議内容にしたいという意向もあり意気込みが感じられる。

保護者からのアンケートの中に「湿疹が出たときに連絡を早めにくれたのでその日のうちに受診できて助かった」「咳・鼻水・便の状態を連絡ノートにきちんと記入してくれる」という肯定的な意見の中に少数ではあるが、延長時間に発熱していたが気づいてもらえなかった。という不安を訴える声も出されていた。担任保育士から延長時間に移行する時の連絡体制など現在の連絡版に添付するメモ以外に子どもの状況を把握する工夫がなされるなど、園が目指す子どもの安全・安心・健康維持に向けた取り組みの一層強化が望まれる。

保護者への感染症のお知らせは、各クラス前の掲示版を使いタイムリーに知らされている。感染症によっては、特別版としてお知らせが作成され配布されている。保育時間内に体調の変化があった場合には、子どもの精神的な安心を第一に各クラスで様子を見ながら安静にし、看護師が様子を把握し担任と話し合っ対処している。子どもの様子によっては、保育室での安静は難しい事・集団での感染などに配慮し看護師と過ごす方向も検討されることを期待する。

4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着いた環境・空間にしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目4の講評			
<p>食事は調理室から観易いホールで4・5歳一緒に、午睡は各クラスごとで食事・午睡の空間を分けられる恵まれた構造である。子ども達は食後の着替え、入眠まで待つことなくスムーズに生活できる。ホールには、幼児全体で利用する大きな棚に子どもの様子に合った絵本が揃えられ棚の前は敷物を敷き子どもがくつろいで絵本を楽しめるよう工夫されている。ソファの置かれたスペースは、カブラ等子どもが作った作品が取り置ける空間となって遊びの持続性を大切に工夫されている。幼児は各クラスロフトに上がれる構造で遊べる空間になっている。</p> <p>本園は、園舎全体が木製で暖かい雰囲気がある。木製の床は、ささくれが出来ないように週に数回アウロックスが掛けられ毎朝・夕掃除機が掛けられる。園内には、廊下・各クラスから出られる木製のテラスなど保育室以外の室内空間が充実しており午睡時間のずれてしまった子ども達が安心して遊べる空間がある。年長児の中には、午睡をしなくなった子どもが居るため午睡時間の半分は休息の為に布団に入り残りの半分は寝ている子どもに配慮して室内の半分を活用し静かな遊びを行って過ごしている。</p> <p>園として保育時間内に子どもが愛着を持って過せる様保護者に呼びかけてダンボール製の箱・家族の写真を貼った手作り絵本などが作成されている。家族写真の絵本はA5サイズの厚紙製で保育に慣れていない時期には、それを見て安心するだけでなくクラスの子供同士の会話を引き出す遊具となり互いの家族を覚えるなど活用されている。特に、乳児クラスのままごとコーナーは手作りのビーズボールやフェルトでくるんだがらがら・ボタンのおもちゃ・エプロン・変身用の布など手作りされて遊びの広がりを促すような工夫がなされている。</p>			
5	評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点(A+)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者の事情に応じて、柔軟な対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者からの相談に応じる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】		<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	
<p>今年度より、延長保育(えくぼ)利用の夜の保護者会が呼び掛けられた。会は、登降園時間の都合でクラスの親と交流が出来難い親にとって、育児の孤独感を防ぐ予防プログラムの一つとして、意味深い取り組みと思われる。親同士で子供と時間の作り方・食事準備の工夫など情報交換が活発にされ、後日登降園の時間、互いに声を掛け合う姿も見られる。延長保育便りえくぼ通信は、春に1度出されメンバーが紹介された。会は、夕食申し込みを行い食事の後から始める等子どもや保護者に配慮されていた。今後もえくぼならではの取り組みに期待が寄せられる。</p>			

評価項目5の講評																
<p>法人内共通のマニュアルには、A4版20ページに及び「保護者との関わり」の章に、保護者と関わる上での基本的姿勢、日常のコミュニケーション(朝夕の会話・連絡ノート・壁新聞・保育参加など)は生活内のいろいろな場面ごとに細かく記されており子供同士のぶつかり合いの際などの対応も噛んだ時・ひっかかれた時・保護者からのお誘いなどについても事例を交えながらの記載となっている。本園は、保護者同士の関わりを作る為には、園が担う役割が大きいという考えの下保護者が参加しやすいよう夜間・休日の行事も計画されている。</p> <p>本園では、“であいの広場”という名前で月1回園だよりを配布している。そこに提供されている園の予定、職員からの個人的な思い、ぐるぐるTalk、日常の保育の様子、保護者からの投稿・味噌作りなど、給食からのレシピ、園長からの子供への思い・遊んでいる様子・子供を見る視点・子育て講座の内容を交えたお誘いや若葉台地区委員会からのお知らせなどB5版の見開きとなっており、保護者へのわかりやすさ・丁寧さに加え、私の子供時代(親・先生)の丸秘エピソードというシリーズもあり保育者と保護者をつなぐ読み応えのある内容となっている。</p> <p>本園では、「預ける/預かる」という関係から子育てのパートナーとなるよう保護者との関係を築こうとしている。その意向は、子育てを支える車の両輪という表現で入園のしおりに記されている。春には、ワークショップとして園舎のメンテナンス・家具の手入れを親子と職員で行っている。園生活をより身近に知って頂く機会と捉えている。利用者調査では、行事に対して「親同士の間を深めやすいように行事には配慮が見られる」「園のつながりがこの土地でのつながりです」に対し「休日は家族でゆっくりしたい」など、保護者によって賛否分かれる。</p>																
6	<p>評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 70%;">標準項目</th> <th style="width: 15%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p>【A+の取り組み】 ○あり ◎なし</p>	評価	標準項目		◎あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	◎あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当	◎あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当	◎あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
評価	標準項目															
◎あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当														
◎あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当														
◎あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当														
◎あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当														
評価項目6の講評																
<p>日頃の子どもの様子から、育児困難と思われる家庭の状況などを事例とし職員会議で話し合いがなされる。家庭状況を十分把握した上で対応していくことが出来るよう会議は、保護者とのコミュニケーションの取り方を、担当者だけでなく多くの保育者の対応の仕方を学ぶ場として活用されている。「10分間会議」もその1つの機会迅速に全職員に報告する仕組みとなっている。現在策定されているマニュアルに加え、本園が得た経験に基づく虐待防止の実践についてのノウハウを組み込み、現場の意識・技術向上に生かされることは意義深いと思われる。</p> <p>保育基本計画の保護者との関わりの中で、子どもの養育に関してはまず親の主体性を尊重することを基本に据えている。問題を抱える親に対して「あたたかな心とゆとりのある態度で」家庭の支えになるよう努めるとの表現で伝えられている。その姿勢は、虐待が予想される場合・育児困難な家庭・子どもの育ちに退行現象が現れた場合すべてに当てはまる。問題は一人で抱え込まない・親と話せる関係作りで全力を上げると記されたこの考えは、予防プログラムの最重要事項で、実現される事は子供の健全育成に大きな成果・貢献になると思われ、期待される。</p> <p>本園では、家庭支援センターから紹介で一時保育に移行した事例がある。不安を持つ親・虐待の恐れへの対応については、保護者との関係から推測される内容と事例との関係性等判断が重要であり、保護者と子どもに関わる保育者の役割は重要である。そのことを踏まえ園では、カウンセリング講座の受講を推進しており初級から上級まで年に数人が受講している。今後、その能力を生かし家庭支援センター等との更なる協力の下保護者に向けた子どもへの理解や虐待に対する意識向上に向けた取り組み等、地域に根ざした本園ならではの役割は大きいと思われる。</p>																

7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当	
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目7の講評			
<p>当該市のニュータウンとして生まれたこの地域は、建物毎に自治会が存在し其々の自治会の役割は様々である。それら自治会を大きな若葉台地区委員会から連絡協議会に発展していこうという動きが始まりつつある、本園も保護者からの仲介でその動きの中で一役担いつつある。本年は、バオバザールをきっかけに保護者による太鼓の披露、イルミネーション点灯式への参加等地域の保護者同士の繋がりの場として保育園が練習場所の提供などを担った。地域力の活性が卒園児等の居場所に繋がる事を想定して積極的に協力する姿勢があり、今後の活動に期待したい。</p> <p>卒園児は毎日のように友達を連れて園に遊びに来ている。卒園児を中心とした中学生のお手伝い募集なども行い園児にとって身近なお兄さん・お姉さんが園に来ることを楽しみにしている。また、中学校体験学習十数名受け入れ場面で、子供の様子・保育の現場を知ってもらおうと積極的である。子供との関わり方は1・2段階と参加日数等により園内で内容が取り決められている、園児にとって実習生やボランティアの来園は、多くの大人を知る良い機会となり、健全な児童育成に向けて今後も地域の中でリーダー的存在として貢献されることへの期待は大きい。</p> <p>全園親睦会(お餅つき)の交流会には、お米の提携農家の方が有機無農薬のお米が出来るまでの写真を持参し説明の会を設ける。会は、親子でその様子を知り食の生産者の事を知る良いきっかけとなっている。本園の食育活動は、餃子・味噌汁・ホットケーキ・焼き芋など食材の買出しから行なわれスーパーの人々・生産農家の人々と交流する事でいろいろな職業がある社会の仕組みを知るチャンスにも着目され活用している。幼児期大切な“体験から学び取る”という特徴を捕え、活動を広げて多角的に取り組む本園の姿勢は今後も継続されることが望まれる。</p>			

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保育の指針—保育基本計画
	内容	本園には、法人と傘下の園が協力し作成された基本保育計画（職員のためのしおり）がある。本計画は改定を重ねた第3版で、バオバブ保育園の職員が共有したい保育の知の集積である。最初に「子どもたちのいのちを守り育むものとしての責任を自覚しよう」から始まる10項目の「バオバブ職員として心がけたいこと」職員の規範と「こんな保育を心がけます」と基本的保育理念と目標がまず示されている。約180頁もの冊子で全職員に配られ子ども1人ひとりを大切にす保育の指針となっている。
2	タイトル	保護者と協働で整備し、保護者と共に創り上げられた保育園
	内容	本園は、市がこの地の丘陵全体をニュータウンとして計画的に整備した、1999(平成11)年に市の募集に法人が応じて開設された。町全体が新しい生活の場としてスタートする中で、本園でも、園庭整備・テラスのデッキづくり・タワー設置などが開設以来継続して保護者と協働で行われ、保護者と共に創り上げられてきた歴史がある。この活動は、園と保護者の子育てのパートナーとしての関係を作り出すだけでなく、親同士の交流を作り出す大きな力となり、あらためて子どもの生活に関心を持つきっかけとなる取り組みでもあった。
3	タイトル	魅力あふれる園舎・親と共に取り組む子育て
	内容	本園の2階0歳児テラスからは、直接園外に出られる橋が作られ歩行の未熟な時期の子どもが待つことなく戸外に出られるようになっている。又、0歳児クラスには、専用の調理場がありカウンターを通して子供の様子が一目でわかるような構造となっている。1・2歳児混合クラスでは、成長に応じて手型押し・タンポ・絵筆を使っての色遊び・わらべうた遊び等が取り入れられている。親子で楽しめるプレイデー(運動会)・保護者と協力して行うバオバブフェスティバル・年長児お泊り会・お楽しみ会など保護者参加を取り入れた本園独特の取り組みが展開されている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	中・長期計画の策定
	内容	法人は傘下4保育園の連携、法人本部機能の見直しと整備が課題となる中、各園は保育の質の確保と向上を最大の課題としている。本園の19年度事業計画には、保育活動、一時保育・子育てひろば事業と園運営体制の見直し、事務の合理化等が掲げられている。一方中・長期計画は策定されていないが、事業計画には単年度に実施するものと中・長期的な継続が望ましいものも見られる。今後、そうした課題の整理や法人の計画を加味した人材育成等について何時・どこまで等の指標を明示した中・長期計画の策定が望まれる。
2	タイトル	保育基本計画のさらなる改正
	内容	今年度、園内研修として保育基本計画を活用しながら、「子供の命を守り、成長発達を促す保育とは」とのテーマで研修を実施し、安全確認と保護者対応の方法について具体的ケースを想定しながら議論を行った。その後、本研修の成果を踏まえ、園内の安全管理に関するマニュアルの再検討へと進んでいる。情報管理に関する事項、記録の仕方に関する事項など、現在改正に向けた取り組みが進行中である。こうした作業により、本園の職員が共有したい保育の知の集積としての保育基本計画が常に更新され続けていくことが今後も期待される。
3	タイトル	手作りの遊び用具などのさらなる展開
	内容	園として保育時間内に子どもが愛着を持って過せる様保護者に呼びかけてダンボール製の箱・家族の写真を貼った手作り絵本などが作成されている。家族写真の絵本はA5サイズの厚紙製で保育に慣れていない時期には、それを見て安心する。特に、乳児クラスのままごとコーナーは手作りのビーズボールやフェルトでくるんだがらがら・ボタンのおもちゃ・エプロン・変身用の布などが手作りされて、遊びの広がりを促すような工夫がなされている。今後ともこうした処遇向上への工夫実践の継続が期待される。